

令和6年8月7日

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園  
大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校  
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校 学校関係者評価委員会は、令和5年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和6年8月7日

2. 学校関係者評価委員

菅原 亮 氏 (私立 旭丘高校 進路指導部主任)  
松浦 千可子 氏 (私立 光明学園 相模原高等学校 教頭)  
熊坂 恵司 氏 (地域住民代表)  
安藤 肇 氏 (本校卒業生)  
齋藤 弘樹 氏 (本校卒業生)  
大野 勇人 氏 (本校卒業生)

(事務局)

川口 清 (本校 校長)  
伊藤 則昭 (本校 副校長)  
井口 敦 (本校 総務課 課長代理)

## 1. 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像	
自己評価	80%
総括	教育理念・目的は書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。学園の特色の一つが『教育ストーリーを3段階(4期)に区分』して実施することである。「就職」と「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。資格取得と就職実績をさらに向上しつつ、実習教育を充実させるために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析し取り組んでいる。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

## 2. 学校運営

2-2 運営方針	
自己評価	定めている。
総括	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

2-3 事業計画	
自己評価	定めている。
総括	学校の運営方針を反映した事業計画(目標達成プログラム)は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。 教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

2-4 運営組織	
自己評価	90%
総括	理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

2-5 人事・給与制度	
自己評価	80%
総括	要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心に適切に運用されている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

2-6 意思決定システム	
自己評価	90%
総括	理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

2-7 情報システム	
自己評価	80%
総括	学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。 役目を終えたシステムなどが残されており、また、業務に応じ、その都度開発されてきた各種システムが存在しているため、これらの整理統合に取り組んでいる。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

### 3. 教育活動

3-8 目標の設定	
自己評価	定めている。
総括	毎年、教育課程を編成するにあたり、教育課程編成委員会の提言を取り入れ、ニーズに合った教育を追求し提供している。 また、各学科の教育目標・育成人材像は、分かりやすく具体的に示している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

3-9 教育方法・評価等	
自己評価	70%
総括	教育課程は外部委員の意見を反映し、体系的にステップアップされてきた。授業内容も定点で評価されている。一方で評価後の具体的取り組み、取り組み後の効果測定までの一連の流れは確立できていないため引き続き、改善に努める。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

3-10 成績評価・単位認定等	
自己評価	90%
総括	客観的な方法で明確に行っている。 卒業研究については、研究テーマの策定から成果評価まで企業に協力頂き、実践的内容で実施している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

3-11 資格・免許の取得の指導体制	
自己評価	80%
総括	資格取得の体制については一定の水準は維持できている。 新たな授業スタイルについての見直しを行い、学生が意欲的に取り組めるよう、教育の質向上を追求したい。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

3-12 教員・教員組織	
自己評価	70%
総括	教員の確保については、常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制はほぼ出来上がっている。育成手法に不十分な点を残している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

#### 4. 学修成果

4-13 就職率	
自己評価	80%
総括	就職指導において、担任が就職希望学生に対し直接指導を行い、就職専任担当者が担任のサポートをする体制を作っている。学生個々の適性や属性を十分に考慮した指導を実践している。学生の希望する就職が概ね達成できている。 また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

4-14 資格・免許の取得率	
自己評価	80%
総括	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。一部高度な国家試験等を除き、大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

4-15 卒業生の社会的評価	
自己評価	40%
総括	企業担当者からの情報に基づき、学生指導に役立てている。課題発見能力、課題解決力が不足している点を複数の企業担当者から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。
学校関係者の評価・提言	企業が求めている人材を学校側が把握する必要がある。情報収集するためにヒアリングやアンケートを実施するなど検討が必要である。

#### 5. 学生支援

5-16 就職等進路	
自己評価	80%
総括	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援制度は整備されている。 就職内定獲得に必要な指導内容は、カリキュラムの一貫として組み込まれ、学生の希望に沿った内定を実現している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

5-17 中途退学への対応	
自己評価	60%
総括	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後も学生指導勉強会の定期的な実施など、担当者の更なる能力向上に向けた取組みが必要である。
学校関係者の評価・提言	入学時の裾野が広い分、退学について致し方ない部分と割り切った方が良いのではないかと。対応している先生と、管理している先生の全員がフロントサイドではなく、後ろで冷静な判断をする人がいなくならないようにした方が良い。 また、退学になったとしても学生の向き不向きを見極めて対応することが大事。

5-18 学生相談	
自己評価	80%
総括	学生相談については、入学時や担当変更時など、節目ごとに全員と面談を行い、学生のシグナルをキャッチし、その都度対応をしている。 また、一人の学生に対して複数の職員が相談に乗るなどし、学生が相談しやすい教員を選んで相談できる状況を作っている。対応状況は指導記録にまとめ、上司に報告を行うよう取り組んでいる。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

5-19 学生生活	
自己評価	90%
総括	より多くの学生が修学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。ボランティアに関しては町田市との関係作りが進んでいるため、学生に対して様々な活動が提供できている。 今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

5-20 保護者等との連携	
自己評価	90%
総括	保護者等への連絡については定期的に行っている。2日以上連続欠席した学生や、欠席が増えている学生に対して、規定の家庭宛注意文書が発送される前に保護者等への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者等に来校していただき、面談も行っている。 連絡が取りづらい保護者等が年々増えているのが現状であり、対応に苦慮している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

5-21 卒業生・社会人	
自己評価	60%
総括	卒業生への支援体制としては、卒業時の担当教員が問い合わせに応じている。担当教員と上司や関係部署間との連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生からも満足を得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。 また、大学卒業や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

## 6. 教育環境

6-22 施設・設備等	
自己評価	90%
総括	施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していく。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

6-23 学外実習、インターンシップ等	
自己評価	90%
総括	実習や研修の参加にあたっては、校内での実習前研修や効果測定、ガイダンス等を行い、参加する目的と取り組む姿勢についての意識づけを行っている。ガイダンスや効果測定については管理者が行い、担任と協力しながら、事故やトラブルを防ぐように努めている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

6-24 防災・安全管理	
自己評価	80%
総括	保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。 また地域との連携体制や、緊急時の対策本部の構築などマニュアル化を進めていく必要がある。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

## 7. 学生の募集と受入れ

7-25 学生募集活動	
自己評価	90%
総括	将来を意識した学生および保護者等に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

7-26 入学選考	
自己評価	80%
総括	学生一人ひとりに対して、書類選考を必ず行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っている。今後もこの体制を維持していく。 また、入学選考時に把握した情報は担任まで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

7-27 学納金	
自己評価	算定している。
総括	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等を常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

## 8. 財務

8-28 財務基盤	
自己評価	安定している。
総括	学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては良好であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

8-29 予算・収支計画	
自己評価	策定している。
総括	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

8-30 監査	
自己評価	実施している。
総括	監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄附行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

8-31 財務情報公開	
自己評価	70%
総括	学園全体の財務情報は大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

## 9. 法令等の遵守

9-32 関係法令、設置基準等の遵守	
自己評価	90%
総括	法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後も引き続き教職員および学生に対して、定期的・継続的に適正な学校運営を行っていく。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

9-33 個人情報保護	
自己評価	80%
総括	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

9-34 学校評価	
自己評価	行っている。
総括	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、ホームページにも掲載している。 外部者による学校関係者評価を行い、報告書をホームページに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。
学校関係者の評価・提言	適正に運営されている。

9-35 教育情報の公開	
自己評価	70%
総括	学校の概要や教育内容はホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。
学校関係者の評価・提言	行政と異なりすべての情報を公開する必要がないため、学校として必要な情報を公開できているという認識であれば、自己評価は高くても良いのではないかと。

## 10. 社会貢献・地域貢献

10-36 社会貢献・地域貢献	
自己評価	70%
総括	附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層へ様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのも提供したいと考えている。
学校関係者の評価・提言	地域イベント開催が日曜日に多く、学校が休みだがイベントに参加してもらえると助かる。

10-37 ボランティア活動	
自己評価	90%
総括	学生の希望者が、町田市や病院等のボランティアに参加している。引き続き多くの方々を支援できるように活動していく。また、学生の自主性を伸ばしていき、卒業後も地域社会に貢献できる人材になれるよう、指導していきたい。
学校関係者の評価・提言	町田でボランティアを探すにあたって、町田市社会福祉協議会などを活用すると良い。

### <自己評価結果について>

自己評価結果については、適正であると評価できる。

大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業、卒業生、近隣住民の視点から検証を行ったが、自己評価結果は妥当であると評価できる。

### <評価委員総括>

退学率の低減に関しては、入学時の裾野が広い分、致し方ないと割り切ることも必要なのではないか。

退学になったとしても学生の向き不向きを見極めて対応することで、将来的に学生のためになることもある。

個人情報保護、教育情報の公開は、もっと高く自己評価しても良い。自己発信が低い状況が続く事は逆に課題となる。

今後も学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、貴校が社会の信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと思う。